



ご家族からの手紙

施設での看取りのおかげで..

長谷川 公恵

県外に住んでいた父母が、私の住む草津市にあるえんゆうの郷に入所したのは、ちょうど一年前でした。こちらで夫婦同じユニットに入ることができ、一緒に食事ができたことは何よりの時間を過ご

せたと思います。

入所契約の時に、延命治療や最後はどこで迎えたいかなど質問項目に、私自身まだピンとこず、わかりませんと答えていました。「施設での看取り」がどれほど尊厳されたものかを一年後に知るようになりました。

母があまり食事をとらなくなったと施設から連絡が入り、血液検査の結果、持病の腎臓の値が悪く、延命処置として人工透析を提案されました。しかし、透析になれば療養型病院に移らなければならず、せつかく父と穏やかに過ごしているのに、離れ離れになる。年齢から考えて治療はそれほど期待できないと考慮し、無理な延命治療はせずに口から食べたいものを食べれる分だけとり、自然な形で看取りたいと決断しました。辛い決断でしたが、施設の看護師さんやケアマネージャーさんも家族の思いを支持してくれ、「看取り契約」をしました。看取り契約をしないと施設で急変した場合、救急車で病院に搬送しなければいけないそうです。自然な形で最期を迎えさせたいと決断したのに、心臓マッサージなどさ

れ痛い思いをさせてしまう。それは避けたいと思いました。看取り契約をしたその日、簡易ベッドを用意していただき、念のために泊りました。その日は寝たり起きたりを繰り返す母に寄り添いながら夜通しお喋りをしていました。眠った母の呼吸が変わったので、別の部屋で寝ていた父を起こして呼んでもらい、二人で母を見守りました。それから一時間ほどで眠りの延長のように静かに息を引き取りました。その後、真夜中にも関わらず看護師さんやお医者さんが死亡確認に来てくださいました。多臓器不全もあるものの「老衰」という診断になりました。「老衰」は、自然で一番楽な死に方だと言われています。草が枯れるように静かに果てる。全く苦しまずに眠るように逝った母の顔を見て、私自身も看取り契約を選んだことに悔いがありません。今回、父と私がずっと寄り添うことができたことは奇跡とも言えます。母は私が泊りに来るのを待っていたんだなど思えてなりません。

慣れ親しんだ施設の介護職員さんや看護師さんや職員の方々が連携をとって看取りのための介護を提供していただき、家族の思いに寄り添っていただいたことに本当に感謝しています。

ありがとうございました。

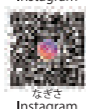
えんゆうの郷では最後まで精神的・身体的ストレスの緩和に務め、ご本人・ご家族の想いに寄り添いながら支援しています。ご夫婦でご入居されて約1年間、仲睦まじくお暮しになりました。面会の日には娘さん手作りのお好み焼きやカレーライスなども召し上がられ、少しの時間でしたが家族水入らずの時間を過ごされました。残された時間をどう過ごしていただくか、ユニット職員はじめ各専門職員で話し合い支援してまいりました。そしてご主人、娘さんご夫婦に見守られながら安らかにご逝去されました。えんゆうの郷として今後もご家族にこころ寄り添いながら支援してまいります。生活支援室 高田浩基

■社会福祉法人 誠光福祉会

えんゆうの郷
〒525-0063
滋賀県草津市南山田町761
電話 **077-598-1866**
FAX 077-598-1766



なぎさ
〒525-0015
滋賀県草津市集町260-1
電話 **077-568-5100**
FAX 077-568-5111



■社会医療法人 誠光会

淡海医療センター
〒525-8585
滋賀県草津市矢橋町1660
電話 **077-563-8866**
FAX 077-565-9313



淡海ふれあい病院
〒525-8585
滋賀県草津市矢橋町1629-5
電話 **077-516-2121**
FAX 077-516-2122

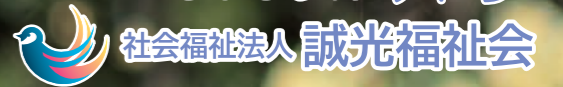


結

~むすび~

Vol.14

2023.9月号



えんゆうの郷 特別養護老人ホーム/ショートステイ
なぎさ グループホーム/デイサービス



えんゆう おでかけ百貨店開店
なぎさ 夏のイベント
特養入居者さんの日中の過ごし方
デジタル機器活用・サービス向上の取り組み
ご家族からの手紙

おでかけ百貨店開店

5月27～29日の3日間にわたり「地域交流サロン 落雁」にておでかけ百貨店を開催しました。今年も感染対策も緩和し、ご家族と一緒に参加された方もおられました。衣服から靴、カバン、お菓子までずらりと商品が並びお話をしながらご自分で手に取り、お買い物を楽しんでいただきました。



いっぱいあって迷うね



たくさん買えてよかった！

これはどうかなー



えんゆう

夏のイベント

なぎさ

夏のイベント



夏のお菓子作り

寿司職人をしていた運転手が主になって、笹船作りをしました。丸めた白あんに紫陽花に見立てた寒天を付ける作業では、「難しいな」と苦戦されていました。「食べるの勿体ないな」と職員に話しながら、堪能されていました。(デイサービス)

紫陽花を親におでかけ



もりやま芦刈園へ紫陽花を見に行きました。沢山咲いている紫陽花を見て「綺麗ななー」と花に触れ喜ばれました。おでかけから戻られてからも「あんな綺麗な沢山の紫陽花見たことないわ、良かったわ。家にもあったらいいのになあ」と話されていました。(グループホーム)



豆ご飯

採れたての豆を使って豆ご飯を作りました。「大きい豆やなー」たくさん豆がつまってるなあなどお話ししながら鞘から豆を出す作業をされました。美味しいと皆様大好評でした。(グループホーム)

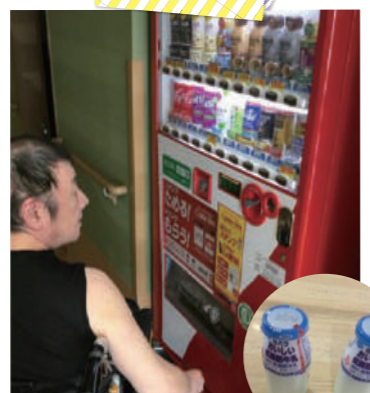


特養入居者さんの日中の過ごし方



08:00

毎朝食パンと、ご自身で用意されたコーンスープを召し上がっています。個々の好みに合わせて食事を提供させていただきます。



10:30

散歩がてら一階の事務所前へ行き、大好きな緑茶を購入。毎週木曜日は配達されてくる瓶の牛乳も受け取っていただきます。



14:30

おやつを食べながら、スマホのゲームに熱中。「これ、どうするか教えて」と、時々職員に聞きながら楽しんでおられます。

～デジタル機器活用・サービス向上の取り組み～

今年度より誠光福祉会ではサービス向上・DX委員会を発足し、介護ロボット・デジタル機器の導入に向けた取り組みを行っています。DXはICTの活用だけでなく、サービスの向上と業務の改善を目的としています。

エアマッサージ器導入のご紹介

今回は、足の血流改善と浮腫み予防のために、エアマッサージ器ドクターメドマー®を導入しましたのでご紹介します。これまでは、足の浮腫み改善のために足浴や簡単なマッサージ、足の挙上などを実施していましたが、なかなか改善しないこともあり。そのような中、何か良いものがないかと探していたところ、エアマッサージ器にたどり着きました。使用して約1カ月、平均して1.5～2cm程度の浮腫みの改善が見られました。

少しでも快適に毎日をご過ごしていただけるよう、このような機器を積極的に導入していきたいと考えております。

今後は、排泄センサーやパワースーツ、移乗器具なども検討しています。



空気を利用して、つま先から太ももへ向かって順次もみあげ、脚全体をまんべんなくマッサージします。症状に合わせて様々なモード設定を行います。